



土曜日に集まって補習を受ける生徒＝三島市立南中

コロナ禍

学習の遅れを挽回

三島南中で
土曜補習 大学生がサポート

新型コロナウイルスの影響による学習の遅れを取り戻そうと、三島市立南中の地域学校協働本部は、高校受験を控えた3年生を対象に土曜補習を続けている。希望する約30人の生徒が同校の教員と地元的大学生から指導を受け、各教科の基礎基本を中心に理解を深めている。

コロナによる休校で授業の進行が遅まる中で、理解が追いつかない生徒もいるという。保護者から心配の声も上がる中、地元住民らでつくる同本部が南中に土曜補習の開催を申し出た。9月から毎週土曜の午後に主要五教科の授業を各30分ずつ実施し、プリントも活用しながら教員らが解説する。

コロナで対面授業がないため地元滞在中の大学生もサポートに加わり、普段の授業で分からない部分も丁寧に教えている。互いに教え合う生徒もみられ、安達万莉さん(14)は「個人学習では難しくても、補習で基本をしっかり確認すればより深く理解できる。授業の復習にもなる」と語る。

同校では受験まで補習を続けるほか、自習を希望する生徒の支援も行っている。

(三島支局・金野真仁)